

第6分科会

研究主題 地域や専門機関との連携・協働による「チーム学校」の実現とその機能強化

水俣市立水俣第二中学校校長 畑口 益喜

I はじめに

本校がある葦北・水俣郡市は熊本県の最南端に位置し、南を鹿児島県出水市と接している。平成23年度の水俣市中学校再編と平成25年度末の大野中学校閉校により、現在、水俣市4校、芦北町3校、津奈木町1校の計8中学校が設置されており、総生徒数は1024人である。本校は地域内の中学校では2番目に大きいですが、今年度は生徒数201人、通常学級6、特別支援学級2という状況である。

本校は、再編成に伴い旧水俣第二中学校と旧水俣第三中学校の大部分が校区となった。校区はJNC株式会社水俣工場や産業団地等の工業用地、生協くまもと等の商用地といった事業所や商店街が連なる。また、校区の中央を国道3号線が縦断し、学校前は幹線道路が通るなど交通量が多い地域である。さらには水俣湾を埋め立ててできたエコパーク、水俣病資料館、熊本県環境センター、市立図書館、市立武道館等の文教施設を有するとともに、徳富蘇峰・蘆花生家等の文化財も点在する。

II 実践の背景

1 水俣市の教育

水俣市教育大綱の基本理念は「郷土の明日をつくる、心豊かな人づくり」である。

また、水俣市教育委員会は基本目標に「心豊かな人づくり～豊かな心で未来に挑戦する人づくり～」を掲げており、学校教育重点指導4項目の1つとして「地域とともにある学校づくりの推進」を設定して、全小中学校でコミュニティ・スクールの活性化と導入促進、地域学校協働活動の推進、家庭・地域・関係機関との連携強化等の具体的実践を進めている。

2 本校の現状と課題

本校は「風格ある二中学生」の教育理念のもと、学校教育目標「夢に向かって 挑戦する生徒～自律と自立～」の具現化に取り組んでいる。

学校経営グランドデザインは、学校の歴史や地域によって耕された「土」を土台に、先生は生徒に水や肥料である教育活動を注ぎ、太陽のように明るく照らす。生徒一人一人は星のように輝く。また、修了式・卒業式時には大輪の花を咲かせるが、その取組は生徒と職員が両輪となって進めることを表している。

また、水俣市教育委員会は「目指す教師像」として「育ての心のある教師」を設定しているが、グランドデザインの記述はすべて「先生」としている。「飯のタネに仕事をするのが教員、勉強や技能を教えるのが教師、生徒の心に灯を点すのが先生。」水俣第二中学校を初任として、後に水俣第一中学校、水俣第三中学校の校長を歴任された宮本勝彬元水俣市長から教えていただいたこの言葉を受けている。

学校経営グランドデザインは着任直後に大きく見直し、職員に校長のビジョンをイメージとして捉えさせた。職員・生徒には自身の言葉で説明できるようになることを求めている。

本校生徒は活気があり、過去に勤務した経験がある職員は口をそろえて「二中が好き」と答える。一方、不登校・不登校傾向や生徒指導上の課題等、毎週の情報交換の対象となる生徒は15%を超える。学力は二極化傾向にあり、その間隔には学年差が見受けられる。生徒質問紙調査や生徒アンケート等の自己有用感に関する質問への肯定的回答率はあまり高くない等、課題も少なくない。地域や関係機関と連携し、対処療法的ではない形で解決を図りたい。

職員構成は県費職員20名の内、34歳から50歳までの教諭が1名。二極化しているが、親和性は高くチームとして機能している。全学年2学級で個々の授業時数は多く、他校と授業兼務の職員も2名いる。部活動数も再編時のままであり負担は少なくない。

保護者は学校の教育活動に対して理解がある。コミュニティ・スクールは市内の各学校に先駆けて設置された。学校運営協議会会長は旧三中や新二中のPTA役員経験者であり、現在は区長と地域学校協働活動推進委員も務めている。

Ⅲ 実践の概要

本校は教育目標達成のための重点項目の1つを「地域とともにある学校づくり」とし、具体的な取組として、

- ①コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体化による学校づくりの推進
- ②二中校区の幼・保等、小、中、高連携の推進
- ③学校ホームページ、学校便り、配信メール等を活用した学校情報の積極的発信を設定している。

また、グリーンタイム（総合的な学習の時間：以下G T）には地域学校協働活動推進委員の協力を得て、地域人材の積極的活用を行っている。

しかし、ここ3年間は新型コロナウイルス感染症対策により、取組の制限を余儀なくされた。

1 水俣第二中学校学校運営協議会

本校は学校再編成の平成23年4月に水俣市のコミュニティ・スクールの指定を受けて準備を進め、25年3月に学校運営協議会が発足した。協議会は、保護者や地域住民の要望や意見を反映させ、特色ある学校づくりを行うという目的の下、本校の教育に関して承認と意見の申し出を行い、さらに、学校応援組織として、教職員・保護者・地域住民とともに参画するという趣旨で設置されている。

委員は、保護者、地域住民、校区内小学校代表者(校長)、学識経験者、行政、学校代表

者から選出されている。令和4年度は7月と3月の2回の会議を実施、体育大会、文化祭、卒業式等の行事にも参加していただいた。

これまでに学校運営協議会で提案され実施した主な活動は以下の通りである。

- J Aに協力いただき、福島県の中学校に生徒が栽培したサラダ玉ねぎを送った。
- 民生委員に協力いただき、生徒がグループに分かれ独居老人宅を訪問した。平成18年度より毎年、3年生が認知症サポーター講座を受講して関連付けた。
- 各行政区長に協力いただき、ステージ発表や展示物の出品を依頼して学校と校区の合同文化祭を実施した。
- 生徒会の要望を受け、意見箱を学校に設置した。
- 体育大会で学校運営協議会長賞及び井上能智王（初年度より10年間学校運営協議会会長、故人）賞の表彰を行なった。

2 地域学校協働活動

水俣市では、水俣市地域学校協働本部が設置され、各小中学校と地域を結ぶ推進委員が配置されている。地域学校協働活動推進員は、学校と地域をつなぐコーディネーターの役割を担い、各学校地域連携担当職員と連携して協働活動や体験活動を実施する場合に必要な外部人材の発掘や依頼、学校とのコーディネートを行っている。

本校でも学年行事やG Tに外部人材の積極的活用を行っている。水俣市の学校教育重点指導4項目にある「地域とともにある学校づくりの推進」を行うために全小中学校が「水俣科（令和4年度までは土曜授業で実施）」を設定し、本校では

第1学年「水俣の今を知ろう」

第2学年「水俣の良さを再発見しよう」

第3学年「自分の生き方を見いだそう」

というテーマで取り組んでいる。昨年度は学年行事に延べ23名、G Tに延べ14名の地域の方に協力いただいた。

3 生徒会活動

本校は平成8・9年度に「郷土の自然を愛し、思いやりのある生徒の育成～水俣に根ざした環境教育の実践～」を主題に、熊本県教育委員会指定環境教育研究推進校の取組を行った。その実践の一つとして平成8年から始めたのが、地域ゴミ分別収集活動である。

これはそれぞれの生徒が住んでいる行政区の地域ゴミ分別収集活動へ参加するものであり、その実践はテレビ放送や教科書への掲載、全国的な表彰を受けることも多く「環境教育の二中」として名を馳せてきた。情報発信の顔となる環境委員長は、生徒会会長と同格という位置づけで取組を行った。研究指定から20年以上たった今でもその成果が活かされていることに、環境モデル都市である水俣市立の中学校としての誇りを感じる。

とは言え、当初の趣旨は薄らぎ、マンネリ化が課題となっており、昨年度の生徒参加率も60%程度である。理由の一つに住民の年齢構成や職業構成等から、開始時刻が早朝や3時頃となっている行政区があり、学校の日課では対応できないこと等も考えられた。分別そのものは習慣化しているが、地域の方との交流にも重きを置いた活動であるため、開始時刻について区長会へ相談している。

4 小中連携

本校生徒の出身小学校の9割を占める水俣第二小学校は徒歩10分ほどの距離にある。校長同士は随時連絡、教頭と教務主任は毎月1回の定例情報交換会を行っている。6月は今年度から実施する学習会（夏休みに中学生が小学校に出向き、宿題の学習支援を行う）について検討した。

また、平成13年、水俣市青少年育成市民会議の発足により全市的に取組が始まった毎月11日の朝の「いい朝いいあいさつ運動の日」の活動を本校でも実践、生徒会執行部が水俣第二小学校の正門で小学生のリーダースタッフと一緒にあいさつ運動を行っている。

この活動は水俣第二中学校区の幼・保等、小、中連携による「基本的な生活習慣の定着」の取組の一環として、近隣の水俣保育園、ちどり保育園、すずかけ保育園の職員等も参加している。

5 中高連携

本校には、技術科の免許を持つ職員がいないため、徒歩20分ほどの距離にある熊本県立水俣高等学校電気建築システム科の職員と生徒に授業支援を依頼している。昨年度は3月に出前授業を実施した。2年生の木材加工と1年生のプログラミング学習を高校生のサポートにより進めることができた。

授業が終わった後の振り返りでは、高校生からは、「教えることで自分たちの学びが深まった。ぜひ次年度以降もやりたい」、中学生からは「高校生に分かりやすく教えていただき、楽しかった」という感想があった。

また、地域にある水俣高校、芦北高校の2校は本校のホームページにリンクさせ、生徒・保護者の情報収集をしやすくしている。

6 校長としての取組

今年4月に水俣二中に着任し、地域連携の視点で以下の取組に注力した。

○学校の実態分析

○毎朝の校門付近の道路の掃除

○学校経営グランドデザインの改訂と周知

○学校ホームページ更新による情報発信（1日1回以上）

○来校者へのHP案内配付

○校長分掌（地域連携に関する役職）

・水俣高等学校学校運営協議会委員

・水俣市PTA連合会副会長

・令和5年度熊本県PTA研究大会役員

IV 実践の成果と課題

令和4年度の全国、熊本県の学力・学習状況調査生徒質紙調査及び校内アンケートで研究主題と関連のある問いに肯定的な回答をした生徒の割合は以下の通りである。（単位は%）

- 1 熊本県学力・学習状況調査生徒質問紙 (i - c h e c k)
 - ①「お祭りやボランティア活動など、地域の行事に参加していますか」
 - ・ 1年生 79.4 (県 72.6 全国 68.5)
 - ・ 2年生 82.5 (県 69.3 全国 65.1)
 - ②「近所の人に会ったときは、あいさつをしていますか」
 - ・ 1年生 83.8 (県 87.3 全国 77.8)
 - ・ 2年生 90.5 (県 86.8 全国 75.1)
- 2 全国学力・学習状況調査生徒質問紙
 - ①「今住んでいる地域の行事に参加していますか」
 - ・ 3年生 68.3 (県 43.3 全国 43.7)
- 3 学校評価の生徒アンケート
 - ①「あなたは、地域のゴミ分別収集活動へ積極的に参加していますか」
 - ・ 全学年 R4年度 72.0 (R3年度 78.0)
 - ②「あなたは、地域の方々との交流や行事に、年2回以上参加していますか」
 - ・ 全学年 R4年度 60.0 (R3年度 58.0)
 - ③「あなたは、学校以外で保護者や地域の方によくあいさつをしていますか」
 - ・ 全学年 R4年度 87.0 (R3年度 90.0)
- 4 成果と課題

地域に関する問いへ肯定的な回答をした生徒の割合は全国や県の平均よりも高い傾向にある。また、校内の生徒アンケートの結果も令和3年度と同様に高い結果となっている。

要因として水俣市の学校教育重点指導項目の1つ「地域とともにある学校づくりの推進」を受けた取組により、意識が高まっていることが考えられる。

令和元年度末からはコロナ禍により教育活動が大きく制限されたため、地域との連携で実施できなかったものも少なくない。しかしながら職員にはこれまでの取組を安易に復活させるのではなく、生徒の実態やニーズに合っているか、役割を終えてはいないか、伝統として継承し続けることに意義があるか等の視点で、多面的に

検討することを指示している。また「私たちは生徒を育てているのと同時に、未来の保護者、地域住民を育てている」という視点を持つことが大切である事も繰り返し伝えている。地域の多くの人に関わっていただき、育てられたという経験は、将来の自分が社会でどのような役割を果たすかという思考と行動につながる。働き方改革も踏まえながら先を見据えて地域との連携・協働を進めたい。

V おわりに

平成14年度から教諭として8年、平成24年度から教頭として3年。そして今年度、3度目の勤務を命じられた。「お帰りなさい。」「でしようね。」の声をいただき嬉しく思うとともに、大切にしている水俣二中の経営を任されたことへの強い責任を感じながら日々過ごしている。

以前勤務したある日、運動場の「風格のある二中学生」の看板の文字の順序が入れ替えられていた。当時の職員は「これは二中職員への、二中学生への突き付けである」と考えた。「風格〇〇二中学生」とは皮肉が効いている。

入学式の式辞やPTA総会の校長挨拶、ほぼ毎日更新しているHPのブログ等では子どもたちへの一つ一つの働きかけは卒業後の「自律と自立」をゴールにしているということ、その思いを学校と保護者、地域で共有することが大切であることを強く訴えている。

中学校は義務教育最後の学校。校長として勤務した3校で同じことを話しているが、葦北・水俣地域の中学生は、ほぼ全員が高校卒業後に他の地域へ進学・就職していく。子どもたちは凧のように高く舞い上がっていくが、糸の持ち手は故郷葦北・水俣に繋いだままでいてほしいという思いがある。

社会生活で生きる知識や技能、課題に対応する能力、学び続けようとする意欲、人や社会と関わり助け助けられる力。より良く生きる力を成人までの前段階にあたる貴重な3年間でしっかり身に付けさせたい。